

藤塚小だより

学校教育目標：生きる力にあふれる子

～「自分らしさを発揮する力」の育成を目指して～

令和4年 10月25日
横浜市立藤塚小学校
学校だより 11月号
TEL (351) 2314
FAX (351) 7349

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fujizuka/>

つながるバトン

副校長 飯島 明良

さわやかな秋の風が感じられる季節となりました。

食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋など、秋と言えどいろいろなものがありますが、藤塚小学校にとっては、秋と言えど「ふじづかスポーツフェスティバル（スポフェス）」。「スポフェスの秋」です。季節が夏から秋へと移り変わり過ごしやすいく気候になる中、藤塚小学校を包む空気は日に日に熱くなるのを感じます。初めてのスポフェスを楽しみにする1年生、笑顔いっぱいダンスに取り組む2年生、初挑戦のソーラン節やボール運びにドキドキワクワクの3年生、3年生にソーラン節を熱心に教える4年生、スポフェス実行委員として6年生とともに運営に携わる5年生、そして、小学校生活最後のスポフェスに一人ひとりが思いをこめる6年生。子どもたちの思いにこたえられるよう、支える教職員たち。そして、あたたかく見守り、応援してくださる保護者や地域の皆様。木々の葉が色づくように、スポフェスにかかわるみんなの思いが学校をいろいろな色に染めているようにも感じます。このお便りが皆様の手元に届くころには、スポフェスも無事に終わり、さらなる実りの秋を迎えていることと思います。

今年度のスポフェスのスローガンは、「ふじのはなを全力満開に！！みんなが主役2022」です。「ふじのはな」は、学校だより10月号でもお伝えしました通り、昨年度から続く児童会スローガンで、藤塚小学校の児童が目指す姿の頭文字をとったものです。スポフェスの様々な活動でも、子どもたちはそのめあてに向かって全力で取り組んでいます。今年度は、スポフェスにおける絆活動（異学年による絆グループでの活動）も復活し、異学年同士の交流もたくさん見られます。絆グループで応援し合う姿はもちろん、演技を教え合う姿、団体競技で協力し合う姿などからも、夏休み明けから本格的に始まった絆活動が、スポフェスを経て活動がさらに深まっているのが分かります。

低学年、高学年の代表選手や補欠の選手が、昼休みにリレーの練習に一生懸命取り組んでいます。リレー選手たちがつないでいるバトンのように、藤塚小学校のスポフェスのバトンも48回つながってきました。「横浜市立学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づき、今年度も感染症対策を取りながらの実施となり、例年通りの開催とはなりませんでした。当日の入場制限を行い、たくさんの方に子どもたちの頑張る姿を見ていただくこともできませんでした。しかし、この3年間、感染症対策を取りながら、子どもたちの学びを止めないように、そして少しでも元のかたちに近付けられるように、様々な学習活動を工夫してきました。スポフェスも同様に、一昨年度、昨年度、そして今年度と、少しずつではありますが元のかたちに近付けられるように努力しています。このようにしてつないでいるバトンにより、今年度のスポフェスがあるのだと思います。

今年度のバトンをしっかりと来年につなぎ、49回目のスポフェスは、たくさんの方にも子どもたちの頑張りを見せられるような世の中になることを願っています。